

# たぬき道

2010年8月発行

第66号

## 目次

地域ニュース		p2-6
ポオとノン	高槻成紀	p7-10
総会報告	瀬川也寸子	p11
総会日記	瀬川也寸子	p11-13
総会参加者の感想		p14-15
総会裏報告	佐伯 緑	p16
Latrine Board		p16



# 地域ニュース

## ホンドタヌキ：赤ちゃん公開 盛岡市動物公園 / 岩手

盛岡市新庄の市動物公園で、今春生まれたばかりのホンドタヌキの赤ちゃん 5 匹が新たに公開され、「かわいい」と来園者の人気を集めている。

ホンドタヌキは市内でも庭先に姿を見せるほど身近な動物だが、警戒心も強く、動物園での繁殖は珍しい。同園でも赤ちゃんの誕生は 11 年ぶりという。

5 月 28 日に生まれた雄 2 匹と雌 3 匹で、それぞれ体重は 900 グラム前後。茶色い体毛と、まん丸な愛らしい目特徴だ。

家族と青森県八戸市東白山台から遊びに来ていた松川陽咲さん(8)は「小さくてとてもかわいい。家に連れて帰りたい」と笑顔だった。【宮崎隆】  
(毎日新聞 2010 年 7 月 12 日)



## タヌキ・ムササビ、赤ちゃん すくすく 富山の動物園

富山市のファミリーパークで今春、ホンドタヌキ 6 匹とムササビのメス 1 匹が生まれた。生育状況を見守っていた同園は 10 日から、ホンドタヌキ 6 匹の公開を始めた。同園では、ホンドタヌキの出産例はあるが、子育てをしなかったり、代わりに人工哺育で育てたりしてきた。今回は親が子育てをする初の自然繁殖になった。

5 月 13 日に職員が鳴き声に気づき、ホンドタヌキの出産を確認。6 月 22 日には 6 匹が巣箱を出てきたという。性別は不明。

同園では 1988 年と 2003 年の出産の際、いずれも親が子育てをしなかった。このため、2004 年の時は生まれてすぐに子どもを取り上げ人工哺育で 2 匹を生育。この時の 1 匹が今回の母親の「ミ

ル」(6 歳)。父親は富山市内で保護され人工哺育で大きくなった「アキラ」(7 歳)だ。

今回は、出産時に母親だけ別の施設に移すこれまでの処置を変え、両親とも同じ巣箱に入れて出産をさせたところ、子育てもできたという。同園は「人工哺育で大きくなった親が、きちんと子育てをできたという点で今回の繁殖は意義深い」と言う。

一方、ムササビは今年 4 月に巣箱の中にいるのが確認された。母親は、05 年に高知県の動物園から来た「ワカメ」(推定 6 歳)。昨秋からペアリングが始まり、今年 3 月に子どもが生まれたとみられる。現在は母親とほぼ同じ大きさにまで成長している。ムササビの繁殖は国内で 4 施設目で同園では初めてだ。【天野彰人】

(朝日新聞 2010 年 7 月 13 日)

## タヌキひかれる？ JR 関西線で 異音 6500 人に影響

3 日午前 9 時半ごろ、大阪府柏原市の JR 関西線高井田 - 河内堅上駅間で、走行中の天王寺発加茂行き快速電車の運転士が異音を感知し、停車。車両を確認したが異常はなく、約 10 分後に運行を再開した。乗客約 300 人にけがはなかった。

上下 10 本が部分運休、15 本が最大 18 分遅れ、約 6500 人に影響した。JR 西日本によると、現場近くの線路脇にタヌキの死体があった。

(産経ニュース 2010 年 7 月 3 日)

## 浴衣姿でタヌキがお迎え... 館林・茂林寺

分福茶釜の童話で知られる群馬県館林市堀工町の茂林寺で、参道両脇に並ぶ 22 体のタヌキ像に浴衣が着せられ、周囲に七夕飾りが並んでいる。

市観光協会と茂林寺商店組合が、夏の観光客向けに行った。台座上の高さ 1.5 メートルほどのタヌキ像は、なで肩が多いためか、それとも蒸し暑い日続きのためか、白や青地の浴衣のまとい方は少しルーズ。

風に揺れる七夕飾りの涼しげな音と、上向き加減のタヌキのひょうきんな顔に、訪れた人々はにっこりとカメラを向けていた。

浴衣姿と七夕飾りは 11 日まで。暑さ本番の 8 月には、タヌキはハワイアン姿に変身する。

(読売新聞 2010 年 07 月 07 日)

## タヌキから子ガメ守れ



四万十市の平野海岸でこのほど、ふ化したアカウミガメが海に向かう様子を日本ウミガメ協議会員の溝渕幸三さん(63) = 四万十市不破 = が確認した。ところが翌朝には、卵の一部がタヌキに掘り返される被害が発生。溝渕さんは「タヌキと知恵比べじゃ」と、プラスチック製のネットで子ガメの保護作戦を開始した。

6 日午後 8 時ごろ、溝渕さんが同海岸を見回っていると、海に向かう約 20 匹を発見した。5 月 21 日に保護して埋めた 115 個の卵からかえった体長 5 ~ 6 センチのアカウミガメだった。

しかし、翌朝訪れると卵を埋めた場所が掘り返されていた。周囲には殻や砂中で腐った卵が散乱し、原形をとどめていた卵はわずかに 2 個。穴の底には、ぐったりした子ガメ 3 匹が残っていた。引っかけたような跡があり「たぶんだめだろう」と思いながら再び砂に埋め、浜を後にした。

7 日午前 4 時ごろ、再び見に行く、また少し掘った様子。これまで周囲でタヌキやハクビシンを見かけていた溝渕さんは、砂に残っていた足跡から複数のタヌキが卵やふ化直後の子ガメを襲った可能性が高いと判断。「タヌキが味をしめた。このままでは危ない」と頭をひねり、卵を守る方法を考えた。

親ガメ数匹分の卵を埋めた場所の表面をプラスチック製のネットで覆い、動物が掘り返せないようにした。さらに、その上に砂をかぶせ、人間が知らずに踏まぬよう、周囲を竹とロープで囲った。

溝渕さんによると、ウミガメの子はふ化後の 1 ~ 4 日ほどを砂の中で過ごすため、わずかな酸素で生きられる。ネットの下まで到達し外に出られなくても、すぐに窒息死する心配はないという。今後は見回りのたびにネットをはがし、子ガメがいれば保護して放流してやるという。

大変な作業だが「地域の人に知らせてもらって保護した卵も多い。責任を持って助けたい」と溝渕さん。

8 日夕、保護ネットを掛けに行った際、弱っていた 3 匹を掘り返してみると、思いもよらず元気に生きていた。小さな腹に、胚膜(はいまく)や卵黄が残っていて、そのまま海に帰すのは危険なため、溝渕さんはそっとバケツに入れて保護。自宅で数日様子を見て、放流することにした。

ウミガメのふ化・脱出は 9 月いっぱい続くという。果たして地道な保護作戦は成功するか。

(高知新聞 2010 年 8 月 11 日)

## タヌキ型消印、根強い人気 小松島、金長だぬき郵便局

全国で初めて動物の名前を付けた郵便局として知られる金長だぬき郵便局(小松島市小松島町新港)で、タヌキ型の消印が根強い人気を誇っている。1989(平成元)年の開局時に作ってから 20 年余り。今も県外のマニアから「押してほしい」との注文が月に 2、3 件はある。「金長だぬき」の局名とともに、局を全国区に押し上げたトレードマークは健在だ。



消印は、金長だぬきをかたどった枠の中に小松島港の風景と市の花のハナミズキが描かれ、下に日付と局名の「金長だぬき」が記されている。はがきや台紙に 50 円以上の切手を張り、希望すれば押しもらえる。

開局から 1 カ月後の平成元年 11 月 1 日に使用を始めたところ、タヌキ型の珍しさや局名が話題を呼んだことに加え、日付に 1 が四つ並ぶとあって県内外から希望者が殺到した。

熱狂的な人気収まった後も、マニアからの注文は継続。少なくとも月に 2、3 件あり、ぞろ目の日付になるとぐっと増える。最近では 2010(平成 22)年 2 月 2 日と同年 2 月 22 日に、それぞれ十数件あった。

注文は県外からの郵送がほとんど。中にはわざわざ局に立ち寄るお遍路さんや観光客もいる。近藤彰宏局長は「金長だぬき郵便局を多くの人知っていて、今でも全国区だと思うとうれしい」と話している。

(徳島新聞 2010 年 6 月 15 日)

## < キツネ > 空き家の床下に親子 茨城・坂東

茨城県坂東市の忍田博史さん(58)宅の庭に、子ギツネたちが現れ、じゃれ合う姿を見せている。空き家になっている忍田さん方別棟の床下に、親子で暮らしているようだ。

忍田さんによると 1 月に巣を作ったらしいが、親は隠密行動で今も姿を見せない。3 匹の子ギツネだけが今月 8 日から、背中に乗り合うなどして遊び始め、忍田さんは「無邪気かわいい」と目を細める。

同じ床下には 4 年前もキツネがすんだことがある。県自然博物館によると、キツネは警戒心が強く人里で子育てするのは珍しいという。【宮本寛治】

(毎日新聞 2010 年 5 月 26 日)

## 皇居にアライグマ = 「生態系崩れる恐れも」 3 月に 1 匹捕獲・宮内庁

皇居で 3 月末、雄のアライグマ 1 匹が捕獲されていたことが 17 日分かった。野生化したアライグマの被害は全国的に広がっており、宮内庁は「とうとう皇居にまで来たかという感じた。今後も注意して監視したい」と気を引き締めている。

同庁庭園課によると、昨年 9 月下旬夜、パトロール中の皇宮警察官が天皇、皇后両陛下がお住まいの御所近くでアライグマを目撃。タヌキ調査用の赤外線カメラに、しま模様の尾を持つアライグマらしき影が写っていたため、同庁は東京都に相談の上、鳥獣保護許可を申請。11 月に長方形のわな五つを設置した。当初はスナック菓子やマシュマロを仕掛けていたが、エサを鶏肉や卵に替えるなど試行錯誤を続け、ようやく捕獲に成功。アライグマは安楽死させられ、国立科学博物館に送られた。その後アライグマの足跡などは見つかっていないという。

同庁の風岡典之次長は「幸い大きな被害は聞いていないが、建物を傷つけたり、住みついたりするのは望ましくない」と捕獲の理由を説明。北沢克巳庭園課長は「もともとペットだったものが逃げたか、飼い主が飼い切れずに捨てたのでは。雑食性のアライグマが皇居で繁殖すれば、生態系が崩れる恐れがある」と指摘している。

(時事通信 2010 年 5 月 17 日)



## トノサマガエル「0」 農薬など原因？ 京都气象台で 5 年連続

かつては初夏になると各地で見つかったトノサマガエルが減りつつある。全国 47 都道府県の管区・地方气象台が毎年行う生物季節観測で昨年見つかったのは 9 県のみ。京都でも 5 年連続して、1 匹も見つからない「欠測」で、今年も難しそうだ。開発などでカエルは世界的に減少が指摘されており、風物詩の「カエルの合唱」も消えつつある。

主に 4~5 月に観測されるトノサマガエルは、1990 年代までは 25 府県程度の气象台で確認されていた。しかし近年は「欠測」が増え、2005 年

からは京都や彦根など 5 カ所で観測されなくなった。これまで一度も観測されることがない札幌、東京、横浜を除く 44 府県のうち、昨年までに 35 府県で消えたことになる。

京都地方气象台(京都市中京区)は、气象台から半径 10 キロ以内で職員がトノサマガエルを見つけた日を「初見」としているが、残された田んぼに出かけてみても、カエルが確認できない状況が続いている。これまでで最も遅い初見は 1962 年の 5 月 30 日で、气象台は「月内は新たな生息場所を探す、今年も見つかりそうにない」とする。

京都では 60 年代から 90 年代後半までに、10 年以上の「欠測」期間が 2 度あった。トノサマガエルは田んぼを主なすみかとするため、農薬の大量使用や減反政策が原因とされ、近年は郊外での住宅開発や農法の機械化が影響しているとみられる。

日本爬虫両生類学会会長の松井正文・京都大教授は「京都市北部の岩倉地域や伏見区の丘陵部でも非常に見つけにくくなった。食物連鎖の中間に位置するカエルの減少は、生態系をいずれ大きく崩す恐れがある」と指摘する。

【生物季節観測】 季節の変化や環境の移り変わりを調べるため、气象台が全国の气象台や測候所で 1953 年から毎年行っている。ウグイスやヒバリの初鳴きや桜の開花日など 23 項目を職員が施設周辺や標本木を観察して発表している。トノサマガエルは 54 年に調査項目に加わった。

(京都新聞 2010 年 5 月 26 日)

## 野良猫、それも小笠原諸島の... 本土でペットに



世界自然遺産登録を目指している小笠原諸島(東京・小笠原村)で、国の天然記念物オガサワラオオコウモリや珍しい野鳥などを襲う野生化した猫を、捕獲して本土に送ってペットにする取り組みが地元 NPO 法人などの手で進められている。

今月からは捕獲作戦に島民も協力を始めた。

猫は住民が飼っていたものが野生化し、人里から離れた場所に住みついて野鳥などを捕まえて生息している。小笠原では 1990 年代半ばから、父島で固有種のオガサワラオオコウモリを襲ったり、母島で海鳥の繁殖地を荒らしたりする被害が深刻化している。

NPO 法人・小笠原自然文化研究所と都獣医師会などが、島の生態系にも悪影響があるととして

2005 年から捕獲を始めた。

生け捕りされた猫は海を渡って本土に運ばれ、獣医師会の有志が無償で引き取ってペットとして育ててもらえるよう 1~3 か月かけて飼いならしている。その後、希望者に譲られ、これまでに 100 匹を超える猫に飼い主が見つかった。

同研究所によると、野生化した猫は、父島と母島でまだ 150 匹はいるとみられる。絶滅危惧種のアカガシラカラスバトの生息を脅かしているとの指摘もある。世界自然遺産登録の機運が高まったことから、地元の住民らも猫の捕獲協力に乗り出した。都獣医師会の小松泰史副会長は、「捕獲した猫は寂しかったせいか、人に慣れると飼い主に深い愛情を示す。世界遺産の候補地でもあり、責任をもって飼う大切さを訴えたい」と話している。

世界遺産登録の評価報告書を作成する国際自然保護連合 (IUCN) による現地調査が 13 日終了し、調査にあたった専門家はこの取り組みについて「人道的なやり方で素晴らしく、良い意味でびっくりした。NPO や住民が参加し、環境教育の機会にもなっている」と話した。また、登録に向けた課題について、「外来種を持ち込まないようにチェックを強化することが必要」などと指摘した。登録の可否は、来年 7 月の世界遺産委員会で決まる。

(読売新聞 2010 年 07 月 13 日)

## 野生動物呼ぶ廃棄果実 7 カ月で 1300 匹超確認

ミカンや野菜などの廃棄地が、野生動物の格好の餌場になっていることが、県果樹試験場 (和歌山県有田川町) の調査で明らかになった。試験地には 7 カ月で延べ 1328 匹の野生動物が食べに来ており、95% がイノシシだった。試験場は「県内の農作物被害の半数はイノシシによるもの。被害を減らすにはまず廃棄果実をなくすることが重要」と呼び掛けている。

県内では毎年約 3 億円に上る鳥獣による農作物被害が報告されている。その大部分は果樹で発生しており、対策として柵の設置や捕獲などが行われているが、一向に減る気配がない。以前から廃棄果実がその一因と言われていたが、今回の調査でその実態が明らかになった。

調査方法は、有田川町内にあるかんきつ類の栽培地周辺に、動物を自動感知するカメラを昨年 3~9 月に設置。撮影した画像を分析した。

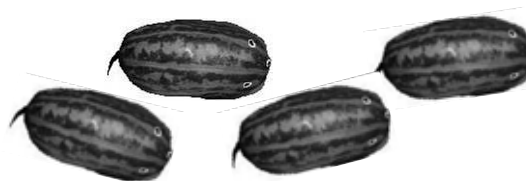
イノシシの出没は 299 回で延べ 1268 匹。うち成獣は 846 匹だった。果実の廃棄が続く 3~6 月に

多く出没した。7 月以降は減少したが、それでも 3 日に 1 回以上出没しており、廃棄場所を餌場として認識していると考えられるという。腐ってスープ状になった果実を執拗に食べ続ける姿も確認された。夜間の出没が多く、午後 6 時から 10 時が全体の 6 割以上を占めた。人の活動時間を避けるためとみている。

一方、ニホンザルの出没は延べ 56 匹 (13 回) で、廃棄果実があっても出没しない時期があるなど偏りがみられた。新鮮な果実がない場合はほとんど出没しなかった。果実が大量にあっても執着して食べ続けなかった。出没は日中だが、人がいなくなる早朝や昼時、夕方に集中している。

食物の廃棄地が野生動物の餌場になっていることについて法眼利幸研究員は「かんきつ以外の果実、野菜、生ごみも、捨てたら餌付けになる。たとえ腐っていても、動物にとってはごちそうだということを知ってほしい」と話している。

(紀伊民報 2010 年 8 月 17 日)



夜に「瓜がいっぱいなってるなあ」、と畑を見たら、ウリ坊がゴロゴロしていた！なんてね。  
野生動物管理より人の管理が先決。

## クサガメ、実は外来種 江戸時代に 朝鮮から 固有種の遺伝子汚染

全国の池などに生息し、日本の在来種とされてきたクサガメが、大陸由来の外来種だったことが京都大などの研究で分かった。18 世紀末の江戸時代に朝鮮半島から持ち込まれたとみられる。交雑により日本の固有種の遺伝子汚染を引き起こしており、国や自治体は保護行政の見直しを迫られそうだ。〔長内洋介〕

京大大学院の疋田努教授 (動物系統分類学) と大学院生の鈴木大さんは本州、四国、九州の計 19 カ所の河川で野生のクサガメ 132 匹を捕獲。ミトコンドリア DNA を分析した結果、日本の在来種ではないことを突き止めた。アジア産のクサガメと DNA を比べると、約 8 割の 102 匹は韓国と一致した。

一方、江戸時代の動植物を網羅した書物でクサガメを調べたところ、貝原益軒の「大和本草」(18 世紀初頭) に記載はなく、小野蘭山の「本草綱目啓蒙」(19 世紀初頭) には記載されていたこ

となどから、18 世紀末の江戸後期に日本へ移入されたと推定した。

当時の大陸との交易ルートは(1)中国から長崎(2)朝鮮から対馬を経て福岡 - の 2 経路。長崎に滞在したドイツの博物学者、シーボルトの著作にクサガメは見当たらず、朝鮮から持ち込まれたのがルーツと結論付けた。愛玩用だったらしい。

野生のクサガメは日本の固有種であるニホンイシガメと交雑し、この雑種は繁殖力があることも判明。放置すれば貴重な固有種の遺伝子や生態系を損なう恐れがある。疋田教授は「ニホンイシガメの生息地ではクサガメをきちんと駆除すべきだ」と話す。

ただ、外来種を規制する外来生物法は明治以降に持ち込まれた生物が対象で、江戸時代の移入種は対象外。クサガメは日本人に広く親しまれ、山口県・見島の群生地は国の天然記念物に指定され、駆除には慎重論も予想される。

外来種問題に詳しい国立環境研究所の五箇公一主席研究員は「科学的なデータに基づいて検討し、国民的な議論を踏まえて決める必要がある」と話している。

(産経新聞 2010 年 7 月 31 日)

総会でも外来種問題の話が出た。とくに長期間定着している外来種対策は難しい。そのような種はその地域の成功者だから個体数抑制も困難だし、在来種への悪影響も大きい。しかも、生態系内でそれなりの役割も維持している... ゆっくり個体数を減らす方が良い場合もあるかも知れない。駆除よりも捕獲して避妊薬投与や去勢などで繁殖抑制を個体群レベルで長期間やるオプションも考えてみても良いのでは。捕っても減らないのが、彼ら「成功者」たち。個体数減少は、日本を見習って「少子高齢化」が決め手かも。㊦

### < 盲目ネコ > 4000 キロの旅 1 年以上不明、NY で保護

【ニューヨーク】昨年 5 月に米カリフォルニア州サンフランシスコでいなくなった盲目の黒ネコが今年 7 月下旬、4000 キロ以上離れたニューヨーク・マンハッタンで保護され、「どうやって来たの?」と話題を呼んでいる。

このネコ、生後 3 カ月でサンフランシスコの動物虐待防止協会に兄弟ネコの「ジム・ビーム」と一緒に収容され、「ジャック・ダニエル」と命名された。ウイルス性疾患で目がほとんど見えず、2 匹そろって篤志家にもられるはずだった。だがジャック

君は施設から突然消え、何者かが連れ去ったとみられていた。

ところが 7 月 31 日、マンハッタン北部ハーレムをのんびり歩いていた野良ネコが保護され、埋め込まれたマイクロチップからジャック君と判明。詳報したサンフランシスコ・クロニクル紙は「ジャックが話せるなら、すべてを説明できるだろうが、ジャックはただ『ミャーオ』と鳴くだけだ」と伝えた。【山科武司】

(毎日新聞 2010 年 8 月 22 日)



### ピーナツバターに誘われたクマ、 車に乗り込み木に激突

【デンバー】米コロラド州デンバー近郊で、野生のクマが乗り込んだ車がひとりでに斜面を走り出し、木に突っ込むという出来事があった。このクマは、ピーナツバターののにおいに誘われて停車中の車のドアを開けて乗り込んだものの、身動きが取れなくなり、変速レバーに触れてギアがニュートラルに入ってしまったという。

鳴り響くクラクションの音を聞き、持ち主の一家が車寄せに止めておいた自動車がないことに気付いた。

クマは約 2 時間後に警察によって解放され、森の中に逃げたという。車の持ち主は、後部座席にピーナツバターのサンドイッチが置いてあったため、クマがそののにおいに誘われたのではないかとの見方を示している。

(ロイター 2010 年 7 月 26 日)

近頃は自分で食べるのではなく、畀かけに使うので買う。これに野外で枝を突っ込む前に、サンドイッチを作れば良かったなあ。㊦は無糖の方が好きだけど、バナナの輪切りを挟むと美味しいよ。



ポオとノン

作：高槻成紀

イラスト：瀬川也寸子

そこは森の中でした。緑のなかに、小さな光がちかちかと遊んでいました。この森にとってもうれしいことがありました。森にすんでいるタヌキの家族に赤ちゃんがつまえたのです。それも2匹です。さきにつまえたお兄ちゃんがポオ、妹がノンという名前です。とても小さいけど、とても元気で、お母さんのおっぱいをちゅうちゅうとすいます。おっぱいを飲んだあとはすやすやと眠ります。そうしてすくすくと大きくなりました。



ある日、お父さんとお母さんとポオとノンの4人で、散歩にでかけました。ポオとノンはうれしくてうれしくて、ぴよんぴよんと飛び跳ねるように歩きました。

「ポオにいちゃん、これなあに？」

ノンがなにかみつけて聞きました。そこには小さい赤い丸いものがいて、ちょこちょこ動きました。

「ぼくも知らない。お父さん、これなあに？」

「ああ、かわいい。これはね、テントウムシというんだよ。お父さんはやさしく教えてくれました。テントウムシは真っ赤な丸い背中に黒い点があります。よくみるととてもかわいい虫です。ポオもノンもテントウムシが好きになりました。



こうして森の中をあちこち散歩しました。ある日、お母さんと小さな流れのあるところに行きました。水が流れているのを見るのはとて

も楽しいものでした。水はいろんな形になりました。そのときノンが声をあげました。

「あつ、何かいるよ」

ポオがいました。

「あれはね、魚というのよ」

魚はキラキラがやいていて、とても早く泳ぐのでした。その魚にみとれていたら、

「ぼおにいちゃん、あれなあに？」

ノンがぎぎました。それはなんだか見たことのないものでした。四角い体に細長い足がたくさんありました。それに大きなさみをもっています。

「おかあさん、みてみて、横に歩いたよ」

その生き物は前にはなく、横に歩いたのです。

「ああ、これはカニというのよ」

お母さんがそういつたときです

「いた！」

ポオが大きな声を立てました。ポオがカニの友達になろうとして近づいたら、カニがポオの鼻をハサミで挟んだのです。みるとポオの鼻が赤くなっていました。

お母さんも、ノンもおかしくて大笑いしました。泣きべそをかいていたポオもいっしょに笑いました。

「ちよっと痛かったけど、今日はとても楽しかったね」

ほんとうにそれは楽しい一日でした。

そうするうちに秋になりました。森は黄色くなりました。森の木の葉が黄色くなったからです。大きくなったポオとノンはふたりだけで散歩する



ことにしました。ちょっとドキドキしました。

「ポオおにいちゃん、大丈夫？」

「へいきだよ、ぼくたち、もう大きくなったんだもん」

「そうね」

ふたりで黄色い森のなかを歩いていきました。そのときノンがいいま  
した。

「あれ、テントウムシかなあ」

「そうかもしれないね、だって赤くて丸いもんね」

でもなんだか違うような気がしました。そのときです

「おい、ポオ、それ食べた？」

それはポオのともだちのキコでした。少し大きい男の子です。

「ううん、これ食べれるの？テントウムシじゃないの？」

「違うよ、これはガマズミっていうんだ。おいしいんだよ」

そういつてキコはその木の実を口に入れました。

「ああ、おいしい。ポオも食べたらいいよ」

ポオはそう言われてガマズミの実を一粒食べてみました。

「ほんとだ、ちょっと甘いね。ノンも食べ食べてみたら？」

ノンもひとつ食べてみました。ちょっとすっぱく、ちょっと甘い味が  
しました。

森には赤い実も黄色い実も、むらさき色の実もありました。秋はすて  
きな季節です。

そうしているうちに冬になりました。空から白いものがふってきた  
とき

「おにいちゃん、きつとこれが雪だよね」

ノンがいいました。ノンはお父さんがこの前、冬になると寒くなって空か  
ら雪というものが降ってくるかと話していたことを覚えていたのです。

「きつとそうだね」

その翌日、目をさますと森は真っ白になっていました。

「わーっ、きれいー。おにいちゃん、みてみて、雪でまっしろよ」

「ほんとだー、すごいすごい」

二人は雪の中でとびはねました。ノンはお父さんが話していたことをもう  
ひとつ覚えていました。

「おにいちゃん、滑り台を作ろう」

「うん、作ろう、作ろう」

ふたりはお父さんが雪を集めて山みたいになると滑り台になると話して  
くれたのを覚えていたのです。手が冷たくなったけど、雪を集めて小さ  
な山を作って、そこからすべりました。すべるときはびゅーんと降りるの  
でワクワクしました。

「おもしろいね」

「うん、おもしろい。もう一度やろう」

二人は何度もすべりました。

「ねえ、おにいちゃん、ノンをだっこして」  
「うーん、ちょっと重いけど、ここに座って」

ポオのおなかのところにノンがすわっていつ  
しょに滑りました。でも滑り台からおりたと  
き、二人とも転んでしまいました。二人の顔

が雪で白くなりました。二人は顔を見合わせ  
て大笑いしました。お家にかえったらお母さ

んがおいしいおやつを用意してくれていました。





「おかあさん、今日は雪の滑り台で遊んで、二人でころんじゃったんだよ」

「そう、楽しかったわね」

よく遊んだので、その日は二人ともぐっすり眠りました。

冬が終わって少しずつ暖かくなってきました。雪がとけて明るい日射しになり、地面から草が生えてきました。ポオとノンはうれしくなりました。

「また、散歩にいこう」

とポオが言うと、

「うん、行こう、行こう」

とノンが答えました。

森の中に行くともまたテントウムシがいました。

「こんにちは、テントウムシさん」

ノンが言いました。

「ちがうよ、テントウムシじゃなくて、テントウムシだよ」

「あつ、そうか」

「あれ、こっちはなあに？」

「それはアリだよ」

アリはとても小さいので、よく見ないとわからないくらいでした。

アリは行列を作っていました。

しばらくあそんでからお家に帰りました。

「ただいま」

「あ、おかえりなさい。今日はどこにいったの？」

とお母さんがききました。ノンが答えました。

「うん、二人で森にいったんだ。そしたら、テントウムシじゃない、テントウムシがいて、それからアリさんもいたの」

「そう、楽しかったわね」

「うん、いろいろな虫がいて楽しかった」

「でも一人では行かないでね、あぶないから」

「はい」

二人は大きな声でお返事しました。

しばらくしたある日、ノンは森できれいな花を見つけました。それはスミレという花だということをお母さんが教えてくれました。とてもきれいな紫色をした小さな花でした。ノンはスミレのほかにもいろいろな花をみつけてお母さんにその名前を覚えてもらいました。森にはいろいろな花があるのです。

ある日、森を歩いていると明るいところがあって、そこにはスミレがとてたくさん咲いていました。そのほかにもピンクのレンゲという花や、ナノハナという黄色いの花がたくさん咲いていました。さっきまでポオといっしょに散歩に来ていたのですが、ノンが花の前で立ち止まってながめていると

「ノン、また花なの？虫のほうがおもしろいよ、早く行こう」

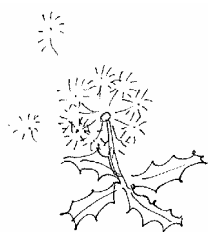
とポオが言います。

「じゃあ、ポオにいちちゃん、先に行って」

「うん、またテントウムシをみつけようって」

といってポオは先に行きました。

レンゲの花をみたあとで、ノンは違う花を探しました。



タンポポという黄色い花もありました。タンポポの中には白い丸いものをつけたものがあって、これは風がふくとふわーっと空に飛びました。

「わあ、おもしろい。空を飛べるんだ」

ノンが見ているとその白いものはほんとうに空高く飛んでいきました。この白いもの下には小さな種がついていて、遠くに飛んでいったところからタンポポが生えるのです。ノンがおいかけているととても広いところに出ました。それは道路です。

「わあー、広い。とても気持ちよさそうだわ」

ノンはうれしくなってタンポポを追い掛けました。自分も空を飛べるような気がしました。

そのときです、ものすごい速さで自動車走ってきたのです。ノンをみつけた運転していた人は急ブレーキをかけましたが、間に合いませんでした。ノンは自動車に轢かれて死んでしまいました。自動車はそのまま走り去ってしまいました。



「ノン、ノン！」

ポ才はいなくなったノンを探して叫びました。でもノンは返事をしてくれません。少し暗くなってきたので、ポ才はあきらめてお家へ帰る

ことにしました。

「お母さんが一人では遊ばないでっていったのに」  
ポ才はとぼとぼと家に帰りました。

「おかあさん、ただいま」

「おかえりなさい。どうかしたの？」

「あのね、おかあさん、ノンがいなくなっちゃったの」

「ええ！お父さん、たいへん、ノンがいなくなったらしいの」

「えっ！それはたいへんだ」

こうしてお父さんとお母さんとそれに、近所のおじさんたちもいっしょにノンを探しました。その日の夜、ノンが道路で死んでいるのが見つかりました。

「僕のたった一人のいもうとだったのに」

ポ才は悲しくて悲しくて涙がとまりませんでした。

「もつともつといっしょに遊びたかったのに。ずっといっしょに遊んで、ノンが大きくなったら、ぼくのお嫁さんにしようと思ってたのに」

お母さんも泣いていました。

「自動車なんかだいきらいだ。道路なんかなければいいんだ」

ポ才は心の中でそう思いました。ポ才はそれから大きくなってたくましい若者になりましたが、毎年春が来てテントウムシやスミレの花をみるたびにノンのことを思い出すのでした。



## 2010年度総会報告

2010年8月4日午前8時50分すぎ～9時30分ころまで

出席者: 佐伯緑・中根順子・佐伯順子・諸藤聡子・志乃・雪乃・瀬川也寸子



### 1. 昨年度の会計報告(詳しくは、たぬき道 65号に記載)

会費収入 1000円×40人=40,000円 支出合計 49,223円 差し引き 9,223円赤字

前年度残高 144,918円 今年度差し引き残高 135,695円(ただし、2009年度会費までの計算になっている。先  
の分まで払い込まれている分についてはここには含まれていない)

### 2. 2010年度「たぬき道」編集と発送担当者と発送予定

66号(佐伯)8月末-9月;67号(瀬川)10月末;68号(佐伯)11月末-12月;69号(瀬川)2月末

### 3. 会費振込状況

現在までにすでに2010年度分会費として振込確認できているものは39名

### 4. 現在の会員数

合計78(個人会員59・行政団体6・大学4・高校1・資料館1・動物園2・博物館1・無料扱い4)

### 5. 会員から総会への返信郵便について

メールも含め、27名の方からお返事とメッセージをいただきました。

### 6. 今年度の目標について

タヌキに関する情報を会員の皆様からアンケート形式で集め、70号発行の記念特集として、会員のみなさまに  
公表したいと考えている。

総会であがった項目としては、下記の通りです。

- ・ タヌキとの個人的なかかわりに関する情報(例:「まだ生で一度もみたことがない」「タヌキの肉を実際に調理し、食べたことがある」「タヌキのおならの音をきいた」「タヌキを保護した」などなど)
- ・ タヌキの交通事故についての情報
- ・ タヌキの能力に関する目撃情報

以上、議事録 瀬川

## 2010年度 タヌキクラブ知夫里島総会日記



8月3日、千葉、茨城組は東京から片道5500円の超格安の高速バスで朝7時すぎに米子に到着、そこから七類港行きバスで前日に米子泊の京都組と合流した。京都組は、松江泊組もあり、別々のルートから港へ向かった。また、親子連れ東京組は、当日の早朝5時起きで、羽田から米子空港経由で七類港へ向かった。

9時頃、七類港で7名の参加者全員が集合。お互いに無事に出会えたことを喜び合った。

9時半、大型フェリーに乗り込む、一番安い2等席はかなり混みあっていた。隙間をぬって陣地を獲得。しかし、子どもたちは、せまいところにジッとしていられるわけがない。すぐに甲板へ。外はかなり暑く、ジリジリと夏の日差しが照りつけていた。遠くを何かが飛んでいる。それだけで、暑さも吹き飛び、何だろうとときりに持参の

双眼鏡をのぞく。ウミウとオオミズナギドリのような感じだ。さんざん鳥見を楽しんだあと、子どもたちは「なーんにも見えなーい！」とたいくつした様子。フェリーで島までは2時間の道のりだ。まだまだ目の前は一面、大海原。なかなか陸地は見えてこない。それならばと、室内でカードゲームをすることにした。しばらく遊んだあと、だれかが、「レストランがあったよ、行って見ない？」と声をかけた。行って見たが、営業していない。そこで今度はレストランのテーブルでまたゲームを始めた。しばらくすると、突然、レストランが営業開始。こぞってかき氷を注文しにいった。食べ終わらないうちにそろそろ到着するとのアナウンスが入り、あわてて荷物をとりに急いだ。もちろん片手にはかき氷のカップを持ったままだった。

さあ、いよいよ島入りだー。

時刻通り、「フェリーくになが」は11時半すぎに知夫里島の来居港に入船した。来居を「キイ」だと思っていたら、「クリイ」と読むそう。他にも「古海」は「ウルミ」、「赤壁」は「セキヘキ」と読む。島のものであるかないかはこの辺でわかってしまうのである。

港に着くと、ホテルの迎えのバスがきていた。このホテル、実は村営なのだそう。今回は、オプション日を除いた総会日の8月3日から4日の宿泊はちょっと贅沢でも、長旅の疲れが癒せるようにとこの島で1件しかないホテル知夫の里に決めていた。

お昼ちょうどにホテルに着き、部屋からの海のながめのすばらしさに一同、大感激。そして、大人も子どももおおしゃぎ。ちょっと前にNHK朝の連続テレビ小説でやっていた「だんだん」のロケ地がこの島だったのだ。このホテルに俳優さんたちや関係者が滞在していたことを知らされ、一同、驚いた。ホテルのいたるところにその関係の写真が貼ってあった。

わたしたちの通されたお部屋はながめだけではなく、広い和室とベッドルームの洋室が合わさったとてもきれいな部屋で、バルコニーも広く、タヌキクラブの総会ではありえないほどの贅沢な宿だった。

ホテルにはレストランもあり、そこで昼食をとり、(周辺はなにもないのでここで食べるしかなかったが……) 皆の希望をきき、午後とはにかく海水浴をしようということになった。ホテルから歩いて1分ほどのところに、まるでプライベートビーチ状態の砂浜と磯がミックスしたような浜があった。その海的美しさに一同思わず「本当は海ってこんなにきれいだったんだー」と叫んでしまった。アワビやサザエもちょっと潜れば捕り放題だとのこと。ウニやカニ、その上イカも目の前を泳いでゆく。イソギンチャクや小さな魚たちの群れも、中には、ハコフグのこどものようなものもいた。大人の肩くらいの深さでも自分の足先や海藻がゆらめく様子がよく見えた。透明度100%といった感じだ。沖縄やグアムの海以上の美しさに全員興奮気味だった。

上空をアマツバメ、トビ、アオサギ、カラスがゆったり、のんびりと飛んでゆく。餌が豊富にあるためなのか生き物たちがとてもゆったり のんびりしている。

本土の同じ生き物たちとは本当にのんびりさが違っている。お陰で、わたしたちもたくさんの時間をプレゼントされたような気分だった。

代表の佐伯は海の中で「犬かき」をしながら、「タヌキかきー」とはしゃいでいた。瀬川は水着が「コマネチ」(?)だからはずかしいと言っていたが、海に入ってしまうとそんなことはどうでもいい!あまりのきれいさに水着を持ってこなかったメンバーもTシャツ短パンのまま入りまくり。「メスタヌキばかりだし、裸でも大丈夫じゃない?」との瀬川の暴言に、佐伯が「海の水がけがれる。やめてくれー」と。これには一同大爆笑だった。

今回、役場の方にお話しをうかがう予定であったが、お盆前の忙しい時期でもあり、取りやめになった。そのかわり、島の人に話しをききながら自分たちでタヌキを探索することにした。

まず、ホテルの人にタヌキのことを聞いてみると、「この周辺に夜になると顔をだすよ」と教えてくれた。「露天風呂に入っていると目の前に出てくるよ。」とも言っていた。遠くへ出向かなくてもここらあたりで会えそうだ。一同期待に胸ふくらませ、日暮れまで自由にのんびりすごすことにした。夕食も夕方の観察のため、18時すぎにしてもらった。さて、海からあがると、それぞれにお風呂に入ったり、昼寝をしたり、周辺の地図をみたり、おみやげをみたり、おやつを食べたりと思い思いに夕暮れを待った。

夕食はサザエのおさしみや新鮮な魚の煮付け、海藻類などなど海の幸がいっぱいで大満足。もちろん、ビールや日本酒はごうまだった。約1名はワイン党だったが、残念ながらワインだけではなく、いささかがっかりしていたようだ。

夕食後、そろそろタヌキたちの活動時間だと、フィールドスタイルで野外に出陣。と同時に目の前にタヌキが現れた。初対面の知夫里タヌキはわりと小柄で、毛の色がずいぶん赤っぽいなどの印象を持った。

その後、周辺を少し、散策し、島の蝉や電灯に集まるたくさんのセンチコガネや虫たちを観察し、島の牛も暗闇で見たあと、部屋にもどった。「あんがい、この部屋の窓の外にいたりしてね」などと部屋でビール片手に話していると、なんと本当にタヌキが現れた。すぐに部屋の電気を消し、皆、息をひそめ、観察体制に入った。すると、いるいる。本当に目の前で動き回っているではないか。残念ながら、タヌキクラブの子どもたちは眠ってしまったあとだったので、大人たちだけで観察した。結局、22時すぎ頃に3頭がいっしょに出てきた。結構、リラックスしている様子で、いつもここにでてきているようだった。やはり、タヌキは小型でそのうちの1頭はしっぽが90度曲がっていた。さんざん見ていたが、24時頃にはいなくなったので、わたしたちは、寝ることにした。(やっぱり、タヌキクラブのメンバーは夜行性ではないようだ)。

翌日、早朝から目がさめ、6時には全員起きていた。代表の佐伯いわく、「朝めしもっと早くしとけばよかったなあ。腹減って目がさめた」7時半のごはんは確かに待ち遠しかった。ごはんがすみ、部屋にもどろうとすると、「あっ、タヌキがいた」子どもたちが叫んだので、全員見に行くとなるとそれはタヌキの置物だった。部屋にもどると、また「あっ、タヌキだ」と子どもが叫んだ、また置物かな?と指さす方をみると、本物のタヌキが1頭、こちらを茂みの中から見ている。その時、部屋にいたメンバーは全員ばっちり見た。次の瞬間、カメラを手にしたが、すでにおそかった。

9時前ころから、30分ほど総会をおこなった。(総会内容はp11参照)

ホテルは10時チェックアウト。本土へ向かうフェリーは10時55分発。最後にホテルの前で全員の記念撮影をとり、港へ向かうバスに乗り込んだ。途中で、オプションにもう1日延長で残るメンバーはその日泊の民宿「いさり火」前でおろしてもらった。こうして、2010年度の総会は一応、無事に終了した。

(せがわやすこ記)



オプション日記は次号へつづく...

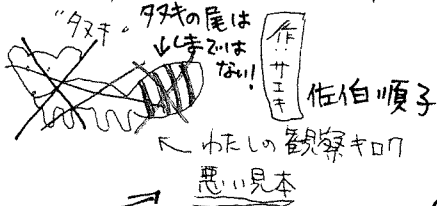
—反木綿に乗っている鬼太郎の頭に乗っている目玉親父のイラストが載っているフェリーに乗っている参加者たち...

# 総会参加者の感想



日焼けしました。海と山に  
 100エイトとんだX=ユーで  
 楽しかったです。コンフで  
 作った水着を着る勇氣がなくて  
 まだまだタヌキクラブには修業  
 が必要やと思います。出るみて  
 きます。

タヌキ を見る事ができて、  
 ここまで来たかいがありました。



## モるふじ書 (小2)

H22年度  
 総会参加して  
 in 知夫里島

今年も子連れ参加をさせて頂き、親子共々大満喫!

1泊2日という短い行程でしたが、<sup>知夫里の海がきれいだった!!</sup>海水浴あり、森のお散歩あり、そして念願のタヌキ観察。部屋の真前に姿を現してくれました。

総会では真面目に外来種問題、哺乳類調査の肉類点検課題など... 体も頭も使って、楽しい総会ありがとうございました。

諸藤聡子

「おはな」へののりやめさせます。何で同じ名をなん? (笑)

生タヌキと出会う。青の  
 クラクションの海(しかも  
 プライベートビーチ)、服のままこ  
 入った知夫里の海はサイコー  
 でした。久し振りの生タヌキ  
 じゃっかかったです。

次も離島での総会を願っ  
 ています。お世話になりました。

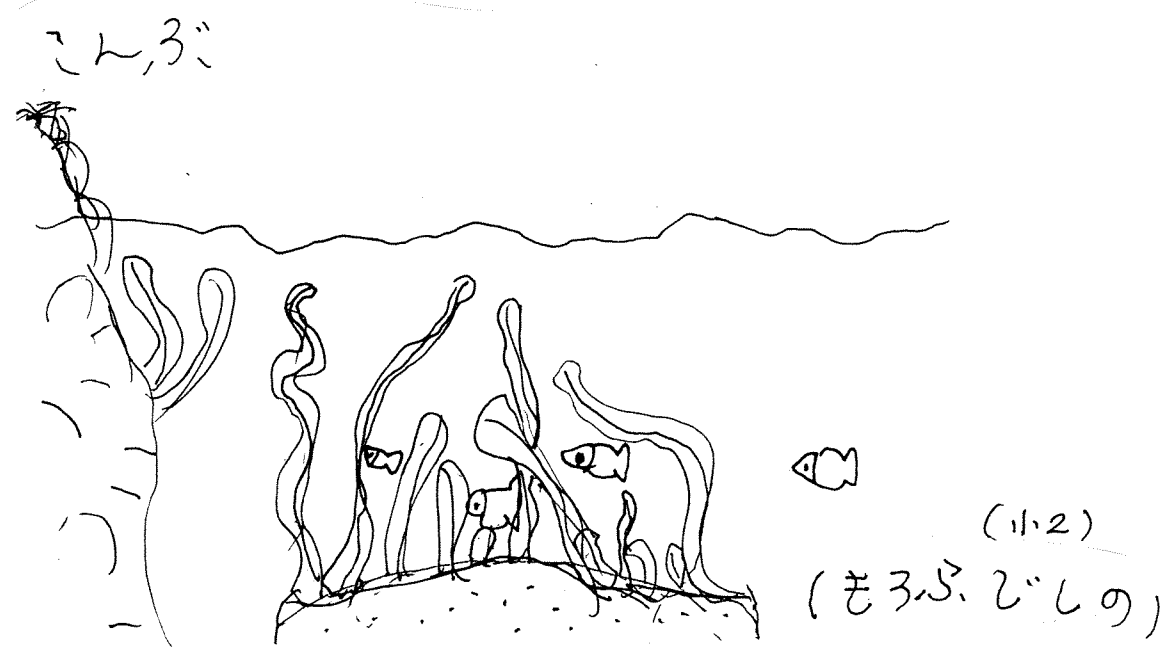
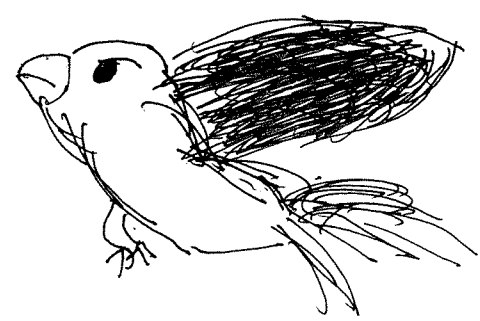
洛北里の番人 yoriko

おはな X せらとるー。

タヌキクラブの総会は  
私にとって いつも 最高に  
楽しい。いやしの時です。  
毎回参加される方々の  
心いきに ホッとさせら  
れます。離島ははじめて  
でしたが、こんなによいとは  
思ってもみませんでした。  
日本には まだまだよい所  
がたくさんあるんですね。  
今回特に、便利は自然  
にとって 敵だというところが  
あらためてわかりました。  
参加された皆さまに感謝です。  
SEGAWA

何と言っても海の美しさは  
圧巻や、た、本当の海はこんなに  
きれいなんやな。総会で生タヌ  
キ見たのは貴重やで。今朝  
せいせい タマフンも足跡 やったから。  
それから 赤壁へは是非もう一度行きたい！  
私は最終日に一人中ノ島に渡り  
隠岐神社に行き、最高峰(246m)と  
極め、ラインボービーで泳いだ。登山道  
に牛さんの足跡が、続いていたのが新鮮  
やった。ビービーでシャワーを浴びられた  
ので、ズリーやバスの乗客に迷惑と  
かけずに汗ぐっすりだけはやめた...。  
汗、何処かいたかな？ (笑)

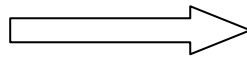
ホームページに知夫里の写真を少し  
アップしています  
(<http://tanuki-c.hp.infoseek.co.jp/chiburi.htm>)



## 総会裏報告

佐伯 緑

### 瀬川レジェンド, 再び...

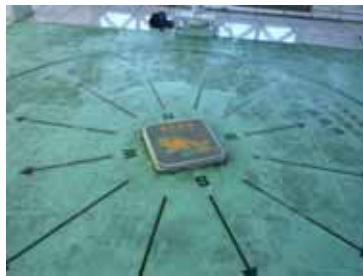
米子から七類行きのバスから見えた  
焼き肉ハウスの看板「バリバリ」を  
「**ジェリジェリ**」と読む瀬川さん。  
その心は、コレ   
(分かりやすいよう少しデフォルメ)  
を「**JEリJEリ**」と脳内変換してい  
たからだった！新たな「バリバリ伝説」(古っ)  
の始まりである...



悪夢の再現  
かと、我々は一  
瞬立ちすくむ。  
この写真を撮  
ってから私は  
瀬川さんにさ

さやいた。「もう踏んでもいいよ」と。去年の  
総会で、ヒナの死体の写真を撮りに行き、子供  
たちの前で踏んづけたことは記憶に新しい。こ  
れは知夫里でのロードキル。ウグイスらしい。  
少ない車に轢かれるより、瀬川さん、否、ウシ  
に踏まれる方が確率は高そうなのに(合掌)

アカハゲ山  
展望台には 4  
台の望遠鏡が  
据え付けられ、  
方角とともに  
ラスベガスや



樺太など示されていた。モンゴル方向で、モン  
ゴルを探す瀬川さん...いや、比較的近い竹島  
だって見えないし。他の隠岐諸島や本州の大山  
はよく見えました。



「<sup>あかばげ</sup>赤禿山」やら「<sup>うすげ</sup>薄毛」やら、  
知夫村の地名は面白い(面白く  
ない人もいるだろうが)。薄毛  
のお隣は「多沢」(たたく)で、  
たたいて発毛促進？なお、恥部  
の薄毛だって一と盛り上がったのは内緒...だ。

## ① Latrine Board ①

ホームページより、『たぬき道』のバックナンバー  
がダウンロードできます。『たぬき道』のページの  
「会員のみ」をクリックして、パスワードを入れて下  
さい。パスワードは小文字でタヌキの学名の属  
nyctereutesです。現在、50号以降のみですが、  
追々古い号も追加していく予定です。

## ☺ 感謝 ☺

土肥昭夫氏よりカンパ2千円頂きました。いつ  
もありがとうございます！

## 📷 表紙の写真 📷

左：アカハゲ山の牛 右上：主人公  
左下：美化看板 右：赤壁

## 🌟 編集後記 🌟

今回は、総会特集号みたいになりましたが、高  
槻氏からはなんと文系の投稿を頂きました。麻布大  
の大学祭で、人形劇をするそうです。また、瀬川さ  
んに怒られるのが分かっているが、裏報告を書きま  
した。瀬川ワールドを知っている人へのおみやげです。  
代わりに彼女の「コマネチ」写真は自粛しました(爆)。

この夏も、合宿@大洗海岸と総会@知夫里島  
および週末ランニングで真っ黒に日焼けした佐伯で  
す。中学生と腕の黒さを比べてみたら、テニス部と  
同等。野球部には負けました...(太さでは勝った)。  
黒すぎて(今のところ)シミが見えません(笑)。まだ  
まだ残暑が厳しいようですが、心身共に澆刺として  
いきましょう。☺

## タヌキクラブ事務局

〒300 - 0334

茨城県稲敷郡阿見町鈴木 2-57

ラピュタ 105号

佐伯 緑方

<http://tanuki-c.hp.infoseek.co.jp>

郵便振替口座 00990-2-140951

年会費 千円